

平成26年度 第1回 国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会 議事要旨

- 1 日 時 平成26年6月20日（金） 13時30分～15時25分
- 2 場 所 **【鹿屋体育大学会場】** 鹿屋体育大学管理棟2階 大会議室
【東京会場】 筑波大学東京キャンパス文京校舎5階 556ゼミ室
- 3 出席者 〔学内委員〕 福永、松下、黒川、原田の各委員
〔学外委員〕 上治、岡崎、小舘、宮嶋の各委員
- 4 列席者 川西副学長、緒方監事、岩重監事、荻田、前田（明）の各学長補佐、事務局各課・室長
- 5 内 容

（質疑の○は学外委員の発言を、●は学内委員及び学内者の発言を示す。以下同じ）

議事に先立ち、学長から、4月1日に就任した緒方監事、岩重監事、及び山西学術図書情報課長の紹介及び事務局から会議のスケジュール及び配付資料の確認が行われた。

1）前回議事要旨確認

平成25年度第4回経営協議会の議事要旨（案）について確定された。（資料1）

2）審議事項

（1）役員の勤勉手当における成績優秀者について（資料2）

福永委員長から配付資料に基づき、本学役員の平成26年6月期勤勉手当における勤務成績優秀者1名について諮られ、事務局（総務課長）から経緯等について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

（2）国立大学法人鹿屋体育大学職員給与支給細則の一部改正について（資料3）

黒川委員から配付資料に基づき、副学長、附属図書館長及び学長補佐の特別勤務手当の支給額を他の対象職と同様に定額支給とするとして、国立大学法人鹿屋体育大学職員給与支給細則の一部改正について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

（3）平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書について（資料4）

黒川委員から配付資料に基づき、平成25事業年度の業務の実績に関する報告書について、年度

計画を上回って実施していると評価した3項目、年度計画を十分に実施していると評価した37項目の報告書を作成したことの説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

(4) 平成26年度受審大学機関別認証評価の自己評価書について（資料5）

黒川委員から配付資料に基づき、今年度受審する大学機関別認証評価（7年に1度）のための自己評価書（案）について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

また、今後の手続きとして、平成26年11月に大学評価・学位授与機構による訪問調査が実施されるとの説明があった。

(5) 平成25事業年度に係る財務諸表等について（資料6）

黒川委員から配付資料に基づき、財務諸表（平成25事業年度分）について、財政状態及び運営状態の概要、決算により生じた当期末処分利益の全額10,418千円を目的積立金とするための申請を行う予定であること等の説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

(6) 平成27年度鹿屋体育大学概算要求について（資料7）

黒川委員から配付資料に基づき、運営費交付金対象事業（プロジェクト分の継続3件、新規1件、基盤的設備等整備分の新規2件）及び施設整備費補助金事業（4件）、並びに施設費交付事業（1件）の要求内容等について説明があり、今後、文部科学省との協議等を踏まえて学内において調整のうえ、最終的には学長に一任することとして、審議の結果、原案のとおり了承された。

(7) 国立大学法人鹿屋体育大学業務方法書の変更について（資料8）

黒川委員から配付資料に基づき、国立大学法人鹿屋体育大学業務方法書について、「産業競争力強化法」の成立により「国立大学法人法」が平成26年4月1日に改正されたこと、及び「政府調達に関する協定を改正する議定書」が平成26年4月16日付けで発効したことに伴い、記載を変更することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

3) 報告事項

(1) 平成26事業年度における会計監査人の選任について（資料9）

黒川委員から配付資料に基づき、文部科学大臣が本法人の会計監査人として「有限責任監査法人トーマツ」を選任した通知があった旨報告があった。

(2) 平成26年度重点プロジェクト事業経費について（資料10）

黒川委員から配付資料に基づき、平成26年度の重点プロジェクト事業経費の採択件数（12件）及び採択額（184,595千円）が決定したこと等の報告があった。

(3) 国立大学法人鹿屋体育大学における資金運用の現況について（資料11）

黒川委員から配付資料に基づき、国立大学法人評価委員会の業務の実績に関する評価で課題があるとされた資金運用について、前回経営協議会で了承された資金運用計画に基づいた5月末現在の資金運用状況について報告があった。

(4) 平成26年度科学研究費助成事業の採択状況について（資料12）

黒川委員から配付資料に基づき、平成26年度の科学研究費助成事業の採択件数（継続17件、新規15件）及び配分額（直接経費45,900千円及び間接経費13,770千円）等の報告があった。

(5) 平成25年度地球温暖化対策の実施状況について（資料13）

黒川委員から配付資料に基づき、平成25年度における本学の地球温暖化対策の実施状況について、温室効果ガス排出量は、マイナス20.87%（対平成19年度比）と目標を大きく上回る削減量であったこと等の報告があった。

- 太陽光エネルギー利用の検討はしていないのか。
- 本学の建物では管理棟や大学会館の屋上に導入しているが、降灰の関係で大規模な設置はできていない。スポーツパフォーマンス研究棟への設置を将来的には検討したいと考えている。独立した建物なので効果が期待できる。

(6) 国立大学のミッションの再定義について（資料14）

黒川委員から配付資料に基づき、本学のミッションの再定義の内容について報告があった。

(7) 共同専攻設置に係るシンポジウムの実施予定について（資料15）

川西副学長から配付資料に基づき、筑波大学との共同専攻設置に係るシンポジウムの実施予定について報告があった。

- グローバル人材の育成に向けてということで、先月のJOCの国際委員会で集中討議され、養成プログラムのメンバーも決まって、NTCで集中的に進めて行くことになった。そこと連携を取って、さらに価値の高いシンポジウムになればいいと思う。

(8) スポーツ・アカデミー形成支援事業の採択について（資料16）

川西副学長から配付資料に基づき、文部科学省が「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムの一環として平成26年度から実施するスポーツ・アカデミー形成支援事業の委託先大学に、本学が選定されたこと及び当該事業の該当等について報告があった。

- 特別研究生の中にJOCからの人材も入るのか。
- 入る。文部科学省との打合せで、日本国内の学生やコーチ等も招聘できるということで話がついている。

- こういう所で培った人脈が、将来日本の力になっていくと思う。
- IOC はどこが窓口になっているのか。
- 大学連携のディレクターの方が窓口になっている。そこから専門領域別に講師を紹介してもらう予定。
- 来週 25 日から東京オリンピックの第 1 回調整委員会が 3 日間開催されるのでそこでうまくコネクションを取れたらいいのでは。色々な担当の方がお見えになるので表敬訪問などの形式を取られればいいと思う。

4) 学内外の諸情勢について

(1) 学生の競技成績について（平成 26 年 3 月～5 月）（資料 17）

事務局（学生課長）から配付資料に基づき、平成 26 年 3 月から 5 月までの本学学生の競技成績の報告があった。

(2) 平成 25 年度卒業・修了者の進路状況について（資料 18）

事務局（教務課長）から配付資料に基づき、平成 25 年度の卒業者及び修了者の進路状況の報告があった。

- 補足だが、鹿屋体育大学を卒業して今年 4 月にミズノに入社した山本耕平君は、水泳の日本選手権の 800m と 1500m で優勝している。

(3) 平成 26 年度在籍学生数について（資料 19）

事務局（教務課長）から配付資料に基づき、平成 26 年 5 月 1 日時点の本学在籍学生数の報告があった。

(4) 平成 26 年度スポーツ振興くじ助成金交付内定について（NIFS スポーツクラブ）（資料 20）

川西副学長から配付資料に基づき、平成 26 年度スポーツ振興くじ助成金が NIFS スポーツクラブに対して交付されることが内定したことの報告があった。

5) その他

(1) 平成 26 年度の経営協議会開催日程について（資料 21）

事務局（経営企画係長）から配付資料に基づき、今年度の経営協議会の開催日程の説明があった。

(2) 意見交換

時間まで意見交換がなされた。内容は以下のとおり。

- 鹿屋体育大学を卒業され、日本女子大学家政学部食物学科で専任講師をしていらっしゃる佐古隆之氏が、明日、日本女子大学同窓会西東京支部の講演会の講師として招かれている。体育と食物の関係を含めた運動生理学を専門にされていて、聴きに行く予定である。
- 岡崎委員が東京オリンピック組織委員会の理事になられたので2020年に向けて有益な情報がもらえると思う。
- 上治委員は参与になられた。
- 学生の女性比率が約28%となっている。大学機関別認証評価の自己評価書によると教員の女性比率が15.6%とあり、これはおおむね適切であるとしてあるが、学生の比率より低い。首相も2020年までに決定権を持つ女性を30%に、と言っており、スポーツ関係でもこのことに積極的に関わっていかねばならない。教員の女性比率がせめて学生と同じ比率になるよう、女性に関する問題にもっと積極的に取り組んではどうか。
- 現在文部科学省の事業で科学技術振興機構(JST)を通じた女性研究者研究支援事業のプログラムがあり、本学の男女共同参画推進室を中心に申請の準備を進めている。最近の取り組みとしては、男女共同参画の講演会に女性研究者をお呼びして講演をしていただくなどして、本学の男女共同参画を進めている。
- 16日にあった説明会には参加されたのか。今年度申請する予定か。
- 説明会に参加し、その後JAXAの塩満氏に相談に行き、現在検討中である。
- 今回は拠点型ができて従来型の数が減ってきており、かなり競争が厳しくなっている。現在までで既に89機関が採択されており、他の大学も積極的に動いている。塩満氏は現在この事業から少し離れていらっしゃるので、むしろJST内部の方にコンタクトを取った方がいいと思う。もし既に計画ができあがっているなら持って行って相談した方が採択が早い。申請は継続して出した方がいい。また、体育系の大学はまだ採択されていないので、2020年の東京オリンピックを見据え、非常にいいテーマ、特色を持って申請できるのではないかな。
- 男女共同参画推進室で検討したい。
- 以前より、鹿児島大学から鹿屋体育大学へアプローチがあると聞いている。鹿児島大学は実質的なことをかなり進めている。鹿児島大学に講演に行った際、男女共同参画担当教員が、できれば一緒に九州エリアで拠点型をやりたいということをおっしゃっていた。
- 鹿児島大学からもそのようなアプローチを受けているが、先日のJSTの説明会では宮崎大学からも連携したいという話があった。
- 一般的にも運動やスポーツを必要としている人たちへの研究や指導への女性のニーズは高く、鹿屋体育大学も女性が活躍しているので、女性の勢いがあるという雰囲気を出していてもいいのでは。
- 人事マネジメント方針等で、明記して対応する予定である。
- ロンドンオリンピックは、初めて各NOC全てに女性が入ってきたオリンピックであった。

鹿屋体育大学の女子バレー部が黒鷲旗に出ていたが、控えの選手がいろいろなパフォーマンスをして話題になっていた。他の大学や実業団にはないこと。

- 国立大学協会でも、女性教員の比率を上げることとされているが、現状では大学院生に女性が多くなってきている。これから多くなることが期待できるが、欧米と比べると少ない。
- 理工系の大学は、学部生にあらかじめ第1志望であるという申請をさせておいて、大学院に合格したら授業料免除などの支援を行っているところがある。女性に限らず男性も含まれる。かなりの国立大学が進学率を上げるためにそのような支援を行っているようである。女性研究者支援は是非進めて頂きたい。
- これから申請書を練り上げていきたい。

(3) その他

福永委員長より、7月末で任期満了となる学外委員に対して、8月からも継続していただけることについて感謝の言葉があった。また、7月末日をもって本学理事・副学長を退任となる松下委員について紹介があり、松下委員から退任の挨拶があった。

以上